

# しごかし

第 13 号



1996年5月

日本野鳥の会三重県支部

## ニュース 三重県支部総会がひらかれました

去る4月14日、1996年度の支部総会が開催されました。今年は昨年と違って、室内行事にはもったいないという声が出るほどの好天に恵まれたためか、多くの方が参加され、会場の女性センターが狭く感じられました。参加者の中には、さきごろ地方自治功労の表彰を受けられた山口顧問のお顔もあり、和気あいあいと始まりました。

総会は市川副支部長により進められ、高橋副支部長の開会宣言、杉浦支部長のあいさつの後、議長に谷本理事を選任し議事に入りました。

まず、各部（編集部、研究部、保護部、運営事務局）による1995年度事業報告および財務部による決算報告が承認されました。ついで、1996年度の事業計画の提案がありました。それぞれの部による活動を始め、企画部からは支部全体の活動についての具体的な提案がなされました。これらは財務部の予算案を含め承認され、とどこおりなく議事は終了しました。そして、さらにシロチドリ保護委員会からの報告、企画部からの予定の連絡があり、総会を終えました。

参加者が多く、その中には新鮮な顔ぶれも多かったのですが、あまり意見も出ず、支部の活動について議論を深めるところまでいかなかったのは残念でした。

総会の後は、第2回野鳥講座として、杉浦支部長から「五十鈴川と鳥」と題するお話をしていただきました。

五十鈴川水系の鳥たちについて、島路川のカワガラスの固体数の変化を中心に、興味深いエピソードを交えたつぶりお話いただきましたが、終了後参加者から多くの質問や意見も出て、充実したひと時となりました。それにしても、環境の悪化、自然保護につながらない河川行政、その間に減っていく鳥たち（カワガラスの減少率は100%！）。会場の暑さとはうらはらに心が寒くなることでした。

さて、その夜は、会場をサンワーク津に移して交流会が持たれました。この席にもいつもの顔ぶれとは違う方が多く参加され、また、いろいろなお話も飛び出して、活発で楽しい交流会となりました。その様子を拝見していると、三重県支部も少し変わってきたかな、今年の活動はなんだか期待できそうだなと思ったことでした。

こうして、朝のシロチドリ保護活動現地調査に始まり夜の交流会までという、私の大変長い一日が終わりました。（報告：世古口）

## 目次

ニュース 支部総会開催	-----	2
特集・支部活動	-----	3~5
会員のページ	-----	6~8
探鳥地マップ⑤ 横山池	-----	9~10
ワンド・イト野鳥保護①	-----	11
特別寄稿 コマジノクハバリ	-----	12
研究報告 サギ類の生態	-----	13
探鳥会報告	-----	14~17
お知らせ	-----	18

## 今号の表紙 絵：平井正志

### ササゴイ *Butorides striatus*

留鳥のゴイスギと少し似ていますが、こちらは夏鳥です。ゴイスギの目が赤いのに対しササゴイは黄色で、体長は少し小さめです。この絵の様に、川の中流域の浅瀬でじっと魚を狙っている姿をよく見かけます。本来は夜行性で、夜、ピューと一声鋭く鳴きながら飛んでいくのを耳にすることがあります。

人里近くの林や海岸の松林などで繁殖しますが、時には町中の公園などの高い木に営巣することもあります。以前、伊勢市駅前神社でかなりの数のササゴイが巣をかけていましたが、いつのまにかいなくなってしまうました。

## シロチドリ保護活動続く

「三重県の鳥シロチドリを守ろう」を合い言葉に、そのステッカー作りから始まったシロチドリ保護活動も3年目を迎えました。前号でお知らせしたとおり、昨年に引き続いて今年も、シロチドリの繁殖地を守るための杭打ちなどの作業が行われました。たくさんの方が参加され、2年目とあって経験もあるところから、要領よく作業を終えました。ご苦労様でした。

当日体力を見込まれて杭を打ちまくり、遅れてきた某新聞社のために見事なやらせポーズを決めるなど、大活躍の西村さんにレポートをお願いしました。また、シロチドリ保護委員会から、豊津浦、吉崎海岸両保護区のその後の様子を報告していただきました。

### 杭打ちながら思ったこと

西村 幹和 (玉城町)

うらかな春の陽射しに、空に舞い上がるひばりの声。打ち寄せる波音に混じって軽快なつち音が響き渡る。手際よく並べられた杭が乾いた砂にぐいぐいと打ち込まれ、次々と網がかけられてゆく。

3月24日、県の鳥シロチドリを保護するための杭打ちが実施された。自然海岸が減少し、県下にわずかに残された繁殖地をこんなふうにして守っていかなければならない程、彼らを取りまく状況は厳しいものとなっています。この現実をどんなふう感じているのだろうか。

私の周りにこんな数字があります。6/7。何だと思いませんか。職場の同僚7人に、「県の鳥って知ってるか？」の問いに“知らない”と答えた者の数です。野

鳥に興味を示さない彼らには当然のことと思われます。一方、“知っている”と答えた1名も、以前無理矢理買わせた“県の鳥シロチドリを守ろう”のステッカーを目にした時、「何これ？」が最初の反応でした。しかし、そのことで彼の頭の中に確実にシロチドリが住み着いたことと思われます。

こんなふうには、やり方はどうあれ、皆んなに関心を持ってもらうことが第一歩だと思います。そのためにさらなるアピール運動をし、この活動の輪を皆んなで大きく広げて行こうではありませんか!!

そんなことを考えながら杭打ち。いろんな意味で自然と力が入ってしまい、昨年に引き続いて今年も“カケヤ”を折ってしまいました。

### 保護区域でシロチドリが営巢中

#### シロチドリ保護委員会

河芸町の田中川河口から豊津浦にかけての野鳥の会設定の保護区域では今年もシロチドリの繁殖が見られている。繁殖の観察は4月14日から毎週会員が分担して行っている。田中川河口に隣接した海岸では4月14日に1巣3卵が見られたが日には既に放棄されていた。しかしその後の観察では2から4番が常に見られており、現在の所巣は発見されていないが、今後繁殖する可能性はきわめて高い。この区域は網が張られているものの犬の散歩や釣り場への道になっており、保護が十分とは言えない。

河口からやや離れた豊津浦海岸の保護区域では南端で4月28日に1巣が見つかり、5月11日現在抱卵中であ

る。また5月3日には別の1巣が見つかり、11日現在抱卵中である。この区域も休日などには出入りする人が多く、巣が放棄されるおそれは捨てきれない。

一方吉崎海岸では4月6日、看板を設置した日に1巣(3卵)が発見されたが、15日の調査ではなくなっていた。その後の調査では多数の番が見られているが、営巣はまだ確認されていない。

保護委員会では会員の協力を得て、今後も観察を続ける予定である。また7月7日には河芸町の海岸清掃日になっており、このとき営巣中のものが見つかれば人が近寄らないように、指導したい。(文責：平井正志)

バードウィークアピール行動①

テグス拾い探鳥会

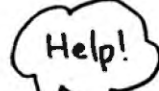
今年もバードウィークのアピール行動として、5月12日、四日市市磯津と松阪港でテグス拾い探鳥会を行いました。その速報です。

まず、四日市での行動には14名が参加し、養魚場等で1時間ほど探鳥をした後（30種を観察）、テグスを拾いました。集計の結果は、55グラムで、これは長さに換算すると715メートルになります（1グラム=13メートルで計算します）。原因はわかりませんが、昨年よりは少ない結果となりました。

松阪では20名の参加がありました。松阪駅に集合してから、愛宕川河口等でシギ・チドリを中心に探鳥を楽しみ（32種を観察）、行動会場である松阪港へ到着しました。別掲のチラシを配布しながらテグスを拾いましたが、なかには「自分はそんなことしないのに」と毒づく釣り人もいて、彼我の距離の遠さを感じました。さて、集計を始めた時は昨年より少ないので、「マナーがよくなったのかしら」などと言っていましたが、みなに忘れられていた（？）参加者があって、しかもたくさん集めてくれましたので、結局330グラム（4,290メートル）と昨年並の結果でした。

5/10～16はバードウィーク(観鳥週間)です。

釣り糸を  
ほからないで!!



あなたのすてたつり糸  
つり針が原因で  
野鳥たちが泣いています。

回収にご協力下さい。

(財)日本野鳥の会 三重県支部

なお、この前日、桑名市の藤田さんが掛斐川で787グラム（10,231メートル）ものテグスを回収したということです。このように水辺には大量のテグスが投棄されています。身の回りのつり愛好家にマナー向上を呼びかけるとともに、探鳥等で海辺や川、池に出かけた時は少しでもテグスを拾うようにしましょう。

バードウィークアピール行動②

密 猟 パ ト ロ ー ル

密 猟 者 を 摘 発 !!

野鳥の繁殖期であるこのシーズンはまた、密猟の多発する時期でもあります。支部では以前から密猟のパトロールを行っていますが、今年は北勢・南勢の両地区で実施しました。そのうち、5月15日に南勢地区で行われたパトロールに参加しましたのでレポートします。

私たち（ ）4人は朝6時伊勢警察署前に集合しました。天候はよく絶好のパトロール日和（？）です。警察からは生活安全課の主任さんに、現地を担当する外勤課の2名も参加されました。さらに朝日新聞の方を加え、車3台を連ねて出発しました。伊勢市南部から南勢町にかけての山間部の道路を回ります。

ところが、この時期には野鳥の会が行動しているのを知っているのか、道路沿いに不審な車や単車は見当たりません。以前密猟者を見つけたことのあるところにもいません。今年は鳥が少ないのだろうかとか、気温が低いからかなどと話をしながら、山中のドライブ

を楽しんでいました。と、その時 さんが急停車。後続の車も止まります。でも、密猟者ではありません。鳥の羽が散乱しているのを見つけたのです。鳥はカケスで、タカ類（オオタカ？）に襲われたものと思われます。頭部等はありませんでしたがまだ生々しく、襲われた直後のようでした。朝日の記者に説明しながら、皆喜んで羽を拾いました。私はきれいなブルーの出ている雨覆羽をゲットしました。警察の人は少しあきれているようでした。

こうして1時間半も走った頃でしょうか、私たちはさらに狭い峠道に差し掛かっていました。その時道路脇に不審な乗用車が停まっているのを発見したのです。私たちが車を降りると、近くにいた男性が出てきました。はじめは、山へ鳥を鳴かせに来たなどとうそぶいていましたが、近くを調べるとかごに入ったおとりのメジロが3羽仕掛けられており、木の枝にはとりもちを塗った竿もかけられていました。間違いなく密猟者で

す。今村さんがなおも付近を捜したところ、テーブルコーダーまでセットしていました。警察が事情聴取を行います。男が「あんたら野鳥の会か」と警察官に言っているのは笑えました。私も少し話をしましたが、とった野鳥は自分で飼うつもりだったと言っていました。ただし、幸いまだ鳥は捕れていませんでした。この密猟者は警察に連行されていきました。

私たちは残り、近くの岩の上で さんお手製のパンと さん提供の紅茶をいただきながら今日のことを話し合いました。

密猟者を摘発したのは後味の悪いものでしたが、運動を進めていく上では、警察やマスコミに現状を理解してもらえてよかったと思います。確かに彼は運が悪いのかもしれませんが、被害に遭う鳥にとっては運が悪いではすまされません。今後もこの行動を強め、広く世間に訴えていきたいと思ひます。

なお、会員の方でパトロールを行う時はくれぐれも注意なさって下さい。すぐに警察と連絡が取れるようにしておくこと、複数で行動することを心がけていただきますようお願いいたします。(報告： )

5 三 12版 1996年 5月16日 木曜日 東京 三

### 後絶たぬ野鳥の密猟

伊勢重慶らのパトロールに同行

#### 山中で不審な男性聴取



伊勢重慶ら（左）と伊勢重慶ら（右）が、山中で不審な男性を聴取している様子。伊勢重慶ら（左）は、伊勢重慶ら（右）と共に、山中で不審な男性を聴取している。伊勢重慶ら（左）は、伊勢重慶ら（右）と共に、山中で不審な男性を聴取している。

おとりのメジロやトシモ子の巣を片付けるメジロに集っていた男性一匹が密猟者だと判明した。

5月16日の朝日新聞

## 企画部からのお知らせ リーダー研修会を開催します

三重県支部の今年の活動方針は「会の運営や柱となる活動を見直そう！」です。会員が増え、会活動への期待も高まっており、探鳥会リーダーへの要望も多様になっています。そこで、今年は次のような研修会をします。

「自然は子孫からの借り物」です。次の世代に自然を伝えることについて考えたいと思ひます。子どもたちと探鳥を楽しむことは基本的におとなの場合と変わりませんが、子どもの年齢、経験によってちょっとした工夫が必要です。そんな工夫を研修します。子どもたちと探鳥を楽しんでみようと思ひ人、ぜひ参加して下さい。経験は問いません。

### リーダー研修会 子どもと楽しむ探鳥会

と き：1996年6月30日（日） 9:30～15:00（予定）

と ころ：未定（津周辺を予定しています）

持 ち 物：筆記用具、双眼鏡、はさみ、弁当、水筒

対 象：リーダー、リーダー希望者

定 員：20名

参加費：無料

申し込み及びお問い合わせは

木村京子

橋本祐子

お申し込みの方には  
詳細をお送りします。

探鳥の記

矢田 栄史 (菰野町)

4月17日(水)、三重県民の森でメジロ50羽程の群がサクラの蜜をすっています。チーチーいいながらにぎやかに飛び回り、時々すぐ近くのマテバシイの木に移ったりしていました。4月26日(金)は県民の森の探鳥会の日でしたが、この日今年初めてオオルリを確認しました。(去年は同じ場所で4月20日にオオルリを見えます。)さらに、センダイムシクイのさえずり、サンショウクイも確認できました。

自宅近くの三滝川近くでは、4月半ばぐらいからイカルチドリがピーピー鳴きながら飛び回っているのを見ていましたが、4月29日(月)夕方5時30分ごろ川原にイカルチドリがすわっているのを発見。続く4月30日(火)は、お昼ごろにイカルチドリ、コチドリがそれぞれすわったり、少し移動してまたすわったりという動作を繰り返すのを見ました。イカルチドリがすわっているところへコチドリが近づくと、もう1羽のイカルチドリが間に入って、体全体をふくらませて威嚇しているようなしぐさをしました。しかし、この場所はすぐ下流で河川工事が行われており、トラックの通路

もこの場所のすぐ脇を通っています。無事子育てができるか見守って行きます。

5月2日(木)は午前中雨、午後雨があがってくもり空。また三滝川へ見に行こうとした途中で、モズの声がします。よく見ると、巣立ちビナが2羽いて、親がエサを与えています。親鳥は飛んでいる虫を見つけて、あつというまに飛んだままつかまえて、ヒナに与えていました。去年は、5月半ばにキセキレイの巣立ちビナを見ていますが、今の時期子育てに忙しいようです。歩いて数分のところで、ホオジロのさえずり、また、初めてアオジのさえずり。アゲハチョウを見たり、スマレの姿に足をとめたりと、これからも、見守って行きたいものです。

いろいろと書いてみましたが、ゆっくり歩けばいろいろなものが見えるし、聞こえてきます。動物も、植物も、また、目には見えない土の下、水の中でも、まだ見ぬ営みがあるようです。感動する心を持ち続けたいものです。

ゴミの正体

高 和 義 (四日市市)

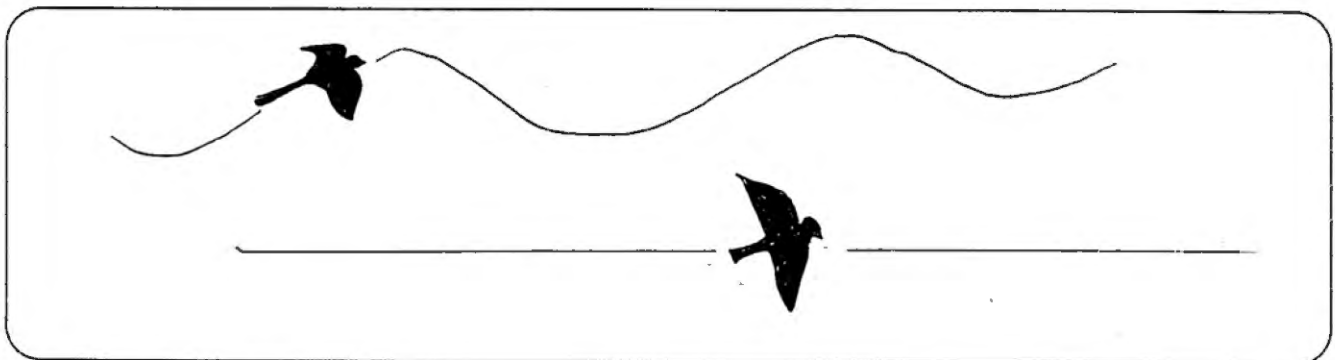
昨年9月23日に行った『95クリーンアップ・キャンペーンSUZUKA』の回収ゴミの集計結果が出ました。ワースト10は次の通りです。

- ①花火(破片を含む) 3, 846
- ②タバコのフィルター 859
- ③プラスチックの破片 471
- ④紙片 411
- ⑤ビニールシートや袋の破片 400
- ⑥レジンペレット 296
- ⑦プラスチックふた・キャップ 180
- ⑧木片(自然のもの以外) 138

- ⑨ビニールひも 122
- ⑩スーパー・コンビニの袋 116

花火とタバコのフィルターがダントツですが、レジンペレットやビニールひものように直接海岸の野鳥に害を与えるゴミもかなり多くありました。ゴミは全て人間が出すと言っても過言ではありません。一人一人が気を付けてゴミのポイ捨てを止めましょう。

野鳥を愛する我々は更に自然をおびやかすゴミを出さないPRをする必要があります。



雲出川河口のミヤコドリとの一年間

多田 弘一 (嬉野町)

幸運にも、野鳥観察を本格的に開始して2ヶ月目の1995年4月24日、雲出川河口の中州にて★4羽のミヤコドリと対面できた。

そのうちの2羽を6月22日まで確認し、本誌第10号に報告した。結局、6月26日まで観察できた。

その最終観察地は、河口より2kmも上流の香良洲大橋の直ぐ下流であった。

7月中は一度も観察できなかったが、松阪市の金剛川河口で見たという情報もある。

8月2日午前5時55分、五主海岸沖の干潟にてウミネコの大群の中に★ミヤコドリ2羽を見つけた。やはり、銃弾による損傷を思わせる下嘴先端破損の個体と左肩外傷後変形治癒らしい個体であった。

8月15日、越夏中の★ウミアイサ1番のエクリプス羽を撮影のため中州へ渡った際、接近を試みたが、50m以内には近づかさない。

ピリッ・ピリッ・ピッ・ピッと警戒の大きな声を発し、より河口の干潟へと飛んだ。

9月8日より3羽に増え、10月5日には元気な若鳥が加わり★4羽に戻った。若鳥は食欲旺盛で、よく群から離れ、より河口の干潟にて二枚貝を上手に食べていた。

11月15日、狩猟解禁の午後、ハンター達がデコイのカモを使って待ち伏せしている。少し離れた干潟で昼寝中の4羽の無事な姿をカメラに収めた。

17日は3羽に減り、その日が最後の面会となった。銃弾を避け、無事に越冬地へ向かった事を心の底から強く祈っていた。

その後、河口ではミヤコドリの見られない寂しい風景の一ヶ月半が過ぎ去った。

幸運にも、四日市豪雪の翌12月28日、久々に探鳥に出かけ、河口の★ミヤコドリ4羽と再会できた。当日、★ズグロカモメ若鳥1羽も観察した。大晦日も出掛けたが、4羽は元気であった。

1996年が明け、やや遅れて1月11日より探鳥を開始した。当日、谷本勢津雄氏のご指導のもと、曾原新田の海岸から養魚池に入った★ツクシガモ3羽を観察した。本支部顧問の橋本太郎先生も、この日観察に来られた様であった。その夜、先生よりお電話を戴いた。

翌12日の新聞紙上にて、副支部長高橋松人氏によるツクシガモ4羽の見事な写真とハンターへの誤射防止の注意看板6枚の設置を知った。16日よりダイシャクシギ1羽が越冬に加わった。

18日、ミヤコドリ2羽を近距離で観察し、越夏した個体と同一であると判定できた。

20日夕、★コクガン2羽が飛来し、ミヤコドリ3羽、ダイシャクシギ1羽と共に記録写真をとった。

29日、五主海岸沖干潟を居場所にしていたツクシガモが2羽しかいない。しかも、ずいぶん脅えて落ち着きが無い。観察を進め、碧川河口近くのノリ養殖網の上で、1羽の新鮮な死骸を見つけた。

2月に入り、すべてのツクシガモの姿が消えた。

17日、珍しく積雪した干潟にて、ミヤコドリ4羽、ダイシャク2羽、ダイゼン2羽が仲良く並んでいた。

19日、狩猟が終わり平穏を取り戻した五主海岸に、ツクシガモ2羽が戻って来た。

27、28両日も観察でき、他のカモ達と共に記録写真をとった。それが、お別れの日であった。

3月に入っても真冬並みの寒い日が続いたが、河口のミヤコドリ4羽は元気に過ごした。上手に開けた二枚貝の中身をユリカモメが奪おうとするが、怒らない。

21日夕、河口ではホウロク12羽、ダイシャク3羽、オオソリハシ9羽が集合して、にぎやかとなった。

4月に入り、潮干狩を楽しむ人々が増えると、遠く海岸沖干潟で見られる日が多かった。

しかし、17日午後も、18日早朝も姿が見られない。

その日、偶然にも櫛田川河口で4羽を見つけた。

雲出川河口以外の場所での観察は初めて。砂利の上を歩く姿が珍しく、記録写真を多く撮った。

以上、初観察から一年間の記録ノートを簡単に振り返った。6月27日～8月1日と11月18日～12月27日の一ヶ月以上の空白期間が二度あるが、私の観察力不足かもしれない。

1995年4月24日の初対面から1996年4月18日現在までの一年間で、観察できた日数129日、のべ観察数413羽、記録写真645枚に達した。

こんな身近に、こんな素晴らしい大自然が存在する事に、大きな驚きと幸せを実感している。

今後も決して見飽きる事なく、常に強い好奇心と探求心を忘れず、楽しく観察を続けたい。

★印は、本部研究センター野鳥記録検討会にて公式記録と認定された。

流域下水道浄化センター（汚水処理場）予定地でもシロチドリが繁殖

平井正志（安濃町）

安芸郡河芸町と津市白塚海岸にまたがる汚水処理場予定地でシロチドリの繁殖が今年も見られた。昨年は1巣が発見されたが、今年も処理場予定地で5月11日1巣が発見され、メスが3卵を抱卵中であつた。場所は海岸に作られたグラウンドの近くで条件は必ずしも良くなく、繁殖に成功するかどうかはわからない。予定地ではその他に1番とメス1羽が見られ、今後さらに営巣が増加する可能性もある。この予定地から北の河芸漁港までの豊津浦海岸では2番が見られ、うち1番は巣立ち直後の飛ぶことのできないヒナ2羽を伴って

た。この予定地北の海岸は工事の際に5年にわたって取り付け道路として使用されることになっているので、この間は繁殖できなくなることは間違いない。

この地域が、三重県の県鳥として指定しているシロチドリの重要な繁殖地であることは明らかである。この汚水処理場建設に先だつて行われた環境調査ではシロチドリの繁殖期に調査をしておらず、シロチドリの繁殖に対する配慮はなんらなされていない。環境評価を再検討し、安易に自然海岸をなくする計画を撤回すべきである。

雑感

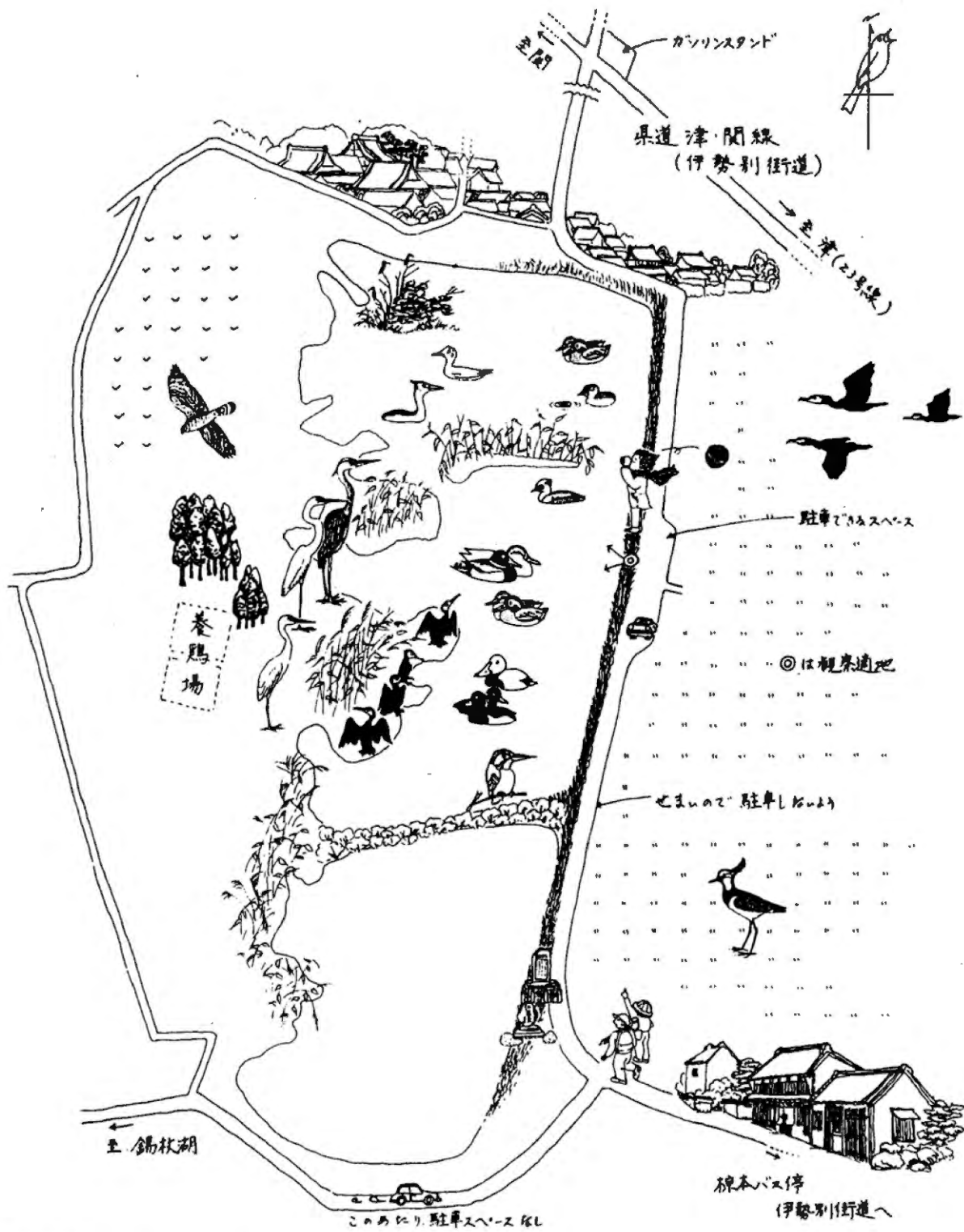
小坂里香（度会町）

塵芥喰ふとて鴉責むるな飽食の我らが罪を彼は喰ふなり  
 水面走る堅き大地を蹴るがごと飛び立つ鴨に冬の音聞く  
 ふるさとは遠くあれどもふるさとに違わぬ鳥の渡り来るかも  
 風読みてサーフィンするらし小さき鷹大気は流る川のごとくに  
 この爪に生命託して雷の魚鷹は冬の海をつらぬく  
 空裂きてつきささりたるまま鴨しばし海中にあり大漁なるらし  
 小綾鷄にちよつとこいと誘はれ双眼鏡手にいそいそと外に出て行く  
 マグノリア咲きたるが如き白鷺のはらはらとばかり枝より舞ひ降る  
 青鷺の黙して川辺に立てるありその存在の聖き確かさ  
 魚跳ねて虫追ひ佇む鳥ありて健やかに宮川今日も暮れゆく  
 鳥愛づる家と知りてむ尉鶴下宿決め込み客人を迎ふ  
 野辺の道羽毛散り敷き食はれしは食ひしの肉となりて生きゆく  
 我が命生かすに術なみこの爪にて鴨を襲ふと鷹は言ふらむ  
 野生消ゆる未来の開演時間迫りて今この時とぞ鳥の影追ふ



# 探鳥地マップ (5) 横山池

所在地 安芸郡芸濃町椋本  
 時期 12月中旬  
 ~ 2月下旬



無複製 (財) 日本野鳥の会三重県支部

# 横山池

1/25,000 地形図 椋本

三重交通バス 津新町より椋本行き終点下車  
徒歩20分 駐車場なし

横山池は緩傾斜地の三方を堤防で囲って作った珍しいため池です。南北に2つの池に分かれています。カモのいるのは北の池だけで、南の池にはまれにコガモが休んでいる程度です。西側は養鶏場になっており、人が入れないためカモ類がゆっくりと休めるようです。観察は東側の堤防の上からに限られます。全体が鳥獣保護区に指定されており、冬季は多くのカモが飛来します。マガモ、コガモが主ですが、種類が多いことが特徴でしょう。ミコアイサはこの数年、数羽が越冬しており、'92-93年と'93-94年のシーズンは雄が飛来しています。なぜかヒドリガモは全く記録がなく、オナガガモも1回1羽が観察されただけです。カワウ、サギ類も多く見られます。ユリカモメが飛来することもあります。カモ類を狙うオオタカが見られることもあります。

## 【今までに観察された主な鳥】

カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ユリカモメ、バン、オオバン、コサギ、アオサギ、ダイサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ミコアイサ、オオタカ、ケリ、タゲリ、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイ、ハンボンガラス。

## ガンカモ調査の記録 (毎年1月15日調査、カモ類のみ)

年	マガモ	カルガモ	コガモ	その他
1989	41	38	130	カモ x 加賀 1
1990	31	0	74	
1991	19	0	103	
1992	47	2	44	加賀 2

☆駐車場なく、路上の駐車スペースもわずかなので通行のじまにならないよう注意して下さい。

☆冬季は風が非常に強いので防寒には十分注意してください。冬型の気圧配置の場合は時雨ことがあります。

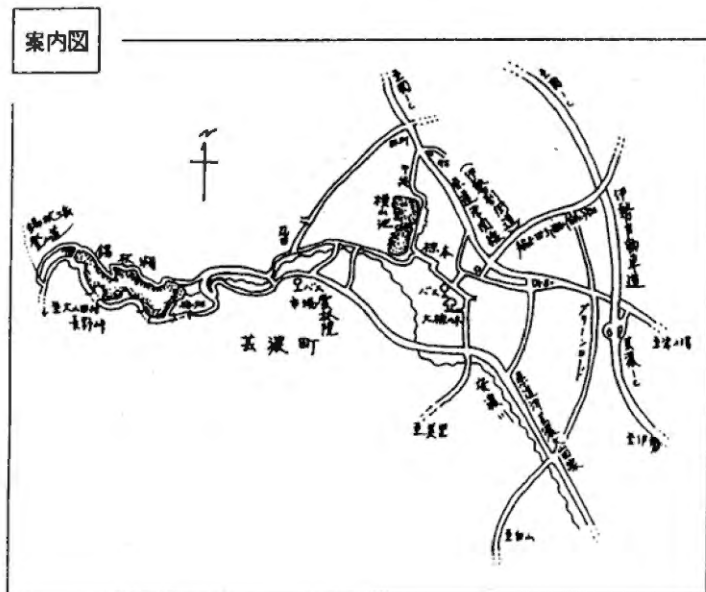
☆近くにトイレはありません。

☆駐車には十分注意してください。

☆椋本の町並みは伊勢別街道のなごりをとどめています。とくに角屋旅館は軒に千社札を掲げて江戸時代そのままの雰囲気で見事に値します。

☆椋本の名の起こりのムクの木は天然記念物で街はずれにあり巨大な幹を残しています。

☆近隣探鳥地 錫杖湖 (横山池から車で10分)



【MEMO】



コマミジロタヒバリについて

榎本 健二 (熊野市)

【はじめに】

紀伊半島の南端、三重県熊野市志原川河口のアシ原と休耕田となっている草地に囲まれた水田跡地で、1995年9月14日～15日の両日にかけて、セイタカシギ2羽とクロハラアジサシを撮影に行った時のことでした。

水田の切り株の間をみなれない野鳥が動き回っているのに偶然出会いました。

どうやらタヒバリとは明らかに違っていることはすぐ判別できました。過去数回(1980年10月21日他4回)観察することができたマミジロタヒバリにかなり似た行動をとっていましたが、それでも何か少し違っているようだったので、近づいて撮影することができたのです。

その結果、日本野鳥の会と山階鳥類研究所に写真を送り判定されたのが、今回のコマミジロタヒバリです。

【経過】

日本野鳥の会に対して写真をつけ、習性を書き、コマミジロタヒバリとして報告した結果、次のような返信でした。

コマミジロタヒバリとのことでした。件につき、報告と写真を検討させていただきました。「マミジロタヒバリに比べて身体は小さく尾も短め……」と報告にありましたが、同所で同時にマミジロタヒバリも観察できた上での確実な比較の結果だったのでしょうか。写真の角度にもよるかと思いますが、尾羽は全体のバランスから見てさほど短いとは感じられません。また、翼の白い線は齢によっては判定の決め手にはなりません。せっかくのご報告ですが、今回は種を断定するのは難しく、保留とさせていただきますと思います。

以上日本野鳥の会の報告結果でした。

しかし、この文章の中で、報告したコマミジロタヒバリの尾羽は短いと書いたつもりはなく、マミジロタヒバリに比べてという気持ちだったのですが、文の書

き方がまずかったのかもしれませんが。それにマミジロタヒバリは当地では5回観察されていて、コマミジロタヒバリとの大きさの区別ぐらいはできる自信があったのですが…。

さて、その後、前述の経過を県支部長に連絡したところ、山階鳥類研究所に「種不明」のものとして鑑定するように照会していただきました。

その後一週間ほど過ぎた時、山階鳥類研究所から本種の鑑定結果をいただくことになりました。次の通りです。

胸の縦斑がはっきりしていること、指の爪が長いことなどからみて、コマミジロタヒバリの幼鳥と判断します。

【生態】

コマミジロタヒバリは動作が機敏で稲株の間を忙しく歩き回り、草につく虫をついばんでいました。歩き方は、足を左右交互に出してウォーキングします。大きさはタヒバリぐらい。飛び方は小さな波形を画く。飛んでもあまり長い距離を飛ぶことはありませんでした。

身体の色はマミジロタヒバリに似ているが、胸の縦斑がはっきりしており、翼の白い線が目立っています。

鳴声はジェット、ジェットとかジュッジュッと濁った声です。

【観察記録】

日時：1995年9月14～15日

場所：三重県南牟婁郡御浜町志原 志原川河口

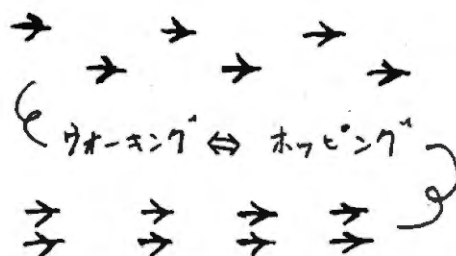
その他：全長約16.5cm、雌雄同色。分布はモンゴル、中国東北などに繁殖分布し、インド、スリランカなどで越冬。日本では秋冬にまれに記録されます。

【発見者】

榎本健二

【編集部・注】

この報告を寄せて下さった榎本健二さんは会員ではありませんが、コマミジロタヒバリ判定の経過に興味深いものがありますので、支部長の薦めもあり、特別に掲載させていただきました。



サギ類生態観察

平井正志 (安濃町)

はじめに

日本に棲息するサギのうちアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、およびアマサギは昼行性でごく普通に見られ、棲息数も多い。また2種以上のサギが同一場所で観察されることも多い。これらのサギがどのように棲みわけているのか、特に採餌場所に焦点をあてて調査した。

調査方法

随時調査時間を設け、水田地帯、河川、海岸等を観察し、調査時間内に観察できたサギ5種アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギをすべて記録した。ただし、飛行中のもの、および遠方で種の識別できないもの、およびコロニー内の個体は除いた。観察したもののうち、餌をついばむ行動や草むらや水面の注視が観察されたものは採餌と分類した。観察された場所の分類については表1に示した。(表省略)

水田についてははしるかきを終わった直後のものが数カ所見られたが、アマサギが集団で採餌しており、他の水田と著しく異なった様相を示しているため、別に分類した。なお観察の重複をさけるため、同一場所における観察は4時間以内には行わなかった。

結果

今回の観察期間水田のイネは4月末に田植が終わったばかりであり、15cm程であった。

観察結果を表2に示す。採餌行動が観察された場所別に見ると、田の畦や道路脇の草地などでは主としてアマサギの採餌が観察された。観察個体数は少ないが、チュウサギも観察された。それに対しコサギとダイサギは観察されなかった。一方、湛水された水田ではアオサギを除くすべての種が観察された。また河川ではアオサギ、ダイサギ、コサギが観察され、このうちコサギが最も多かった。またチュウサギとアマサギは全く観察されなかった。海岸ではアオサギ、ダイサギお

よびコサギが観察されたが、ダイサギが最も多かった。

考察

今回の観察方法では観察場所の選択によって観察される種の比は変化する。すなわち河川での観察回数が多ければコサギやダイサギが多くなり、水田での観察が増えればアマサギが増える。従ってそれぞれの種の棲息数の比や、それぞれの種がどこで採餌する頻度が高いかを論じることはできない。

しかし水田地帯の観察では、同一の観察地点から上記2分類(畦および草地と水田)を観察することができ、アマサギとチュウサギについてはこの2分類でしか観察されない。またこれらのサギは白色であり、観察もれはほとんど無いと考えられる。従ってこの2種については採餌場所の利用頻度を論じることができよう。アマサギの採餌は草地および水田の畦に集中していた。水田で水面をつつく行動がごくまれに観察されたが、水棲動物を捕食する割合はきわめて少ないと考えられた。チュウサギは畦や草地と水田そのものをほぼ同じ頻度で利用していた。チュウサギは水田脇の狭い水路で採餌する場合が見られたものの、河川や干潟では観察できなかった。チュウサギが河川で採餌するのはきわめてまれと推定される。チュウサギが魚類を取るのであればなぜ河川で採餌しないのかという疑問が生じる。しかしチュウサギが、魚類を取る割合は少なく、ザリガニやカエル等魚類以外の水棲動物を主として摂取していると考えれば、これら水棲動物の多い水田や狭い水路で採餌するものの、河川には出ないのも説明できるであろう。

ダイサギとコサギについては草地ではまったく採餌せず、陸生の昆虫を摂取しないものと推定された。

水田地帯での観察数の比からチュウサギの棲息数はアマサギの1/10程度と推定される。

第2表 サギ類の採餌(1992.05.10-05.23)

	全観察数	採 餌 観 察 数						
		合計	畦・草地 J, M	耕起直後の水田 T	水田・湿地 G, F	水路 D	河川・池 C, E	海 A
アオサギ	6	2	0	0	0	0	1	1
ダイサギ	26	24	0	0	2	0	9	13
チュウサギ	27	25	9	0	14	2	0	0
コサギ	69	45	0	0	7	1	33	4
アマサギ	272	241	172	50	19	0	0	0
合 計	400	337	181	50	42	3	43	18

○大山田村村民バードウォッチング

(阿山郡大山田村真泥池)

- ・日 時：1995年11月19日(日) 10:00~12:30 曇
  - ・担 当：前澤昭彦、谷本勢津雄
  - ・参加者：35名 観察種：32種
- 珍鳥アカハジロ♀を全員が観察しました。(前澤)

○中央緑地探鳥会(四日市市日永1丁目)

- ・日 時：1996年1月26日(金) 10:00~12:00 曇
- ・担 当：尾畑玲子、濱中明代
- ・参加者：11名 観察種：19種

下見のとき、紅葉がまだ…?と目を疑った。イイギリ。じつは赤い実をいっぱいつけているのでした。今日は上部は裸になり下3分の1位に実が残り、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、ツグミがごちそうにありついています。それにしても公園にはまだ木の实がいっぱい残っています。冬鳥さんは一体どこへ行っちゃったのでしょうか?(尾畑)



○亀山1金探鳥会(亀山市椿世町)

- ・日 時：1996年2月2日(金) 9:00~11:50 雪
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：2名 観察種：22種

雪のため中止にしようと思ったが、雪も小止みになってきたので一人で出発した。行程の4分の1位のところで、伊藤さんが追いついたので、二人の探鳥会となった。マヒワは見られなかったが、アオジが4羽で雪の上に出た草の実をジャンプしながらついでついでと、近くでゆっくり観察した。

○神社の森観察会(伊勢市外宮勾玉池)

- ・日 時：1996年2月3日(土) 13:00~14:30 晴
- ・担 当：吉居瑞穂
- ・参加者：18名 観察種：19種

木の实がまだたくさん残っている。前日までの寒さで西の方の池は厚い氷におおわれていてカモがいなかった。コガモの数が増えている。ツグミがグスの木の实を食べていたが、種をペリットとして吐き出すのがよく見えた。

○磯津探鳥会(四日市市磯津町)

- ・日 時：1996年2月7日(水) 10:10~12:30 晴
- ・担 当：高 和義、鹿島素子
- ・参加者：6名 観察種：36種

本日は快晴となったが、冷たい風は肌を刺すようであった。昨日の風雪のためか、鈴鹿川河口にはカモ類は殆どおらず、漁港内と養魚池で視認された。その数はそれ程多くはなかったが、種類は豊富で、通常見られるカモ類は殆ど観察することができた。漁港内で風上に頭を向けて整列しているホシハジロの群は小型の艦隊のように見えて面白かった。(高)

○多度峡探鳥会(桑名郡多度町多度)

- ・日 時：1996年2月11日(日) 9:00~12:00
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：4名 観察種：23種

今冬、小鳥が少ないように思われますが我家の庭先でも例年に比べかなり少ないようです。多度峡でも少ないようですが、なんと今日の探鳥会では、メジロ、エナガの群にシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラが混じり賑わっているやら、空を見上げれば、ハヤブサがレース鳩を追いかけて何回も宙返り飛行が見られるやら、多度大社の駐車場では、ニホンザルが電線で綱渡りを行うなど、ふなれなリーダーが目を回しそうな一日でした。

(人間とニホンザルの間でトラブルがなければと心配しています。)

○亀山水曜探鳥会(亀山市亀山公園)

- ・日 時：1996年2月14日(水) 9:20~12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子、楢原 葵
- ・参加者：21名 観察種：30種

テーマは「シメを見る」。シメがいなくて残念だったが同じアトリ科のイカルの群を観る事ができた。また、一本杉の天辺に茶色のベレー帽をかぶり、アイボリーのマントを着たノスリが長時間止まっていたのでゆっくり観る事ができ、時間延長してしまいました。

(猛禽類とは思えないやさしい姿であった)

枯枝にさむざむ残る空巢かな (伊藤)



## ○五十鈴公園探鳥会（伊勢市五十鈴公園）

- ・日 時：1996年2月16日（金）9:00～12:00 晴
- ・担 当：林 淳子、吉居瑞穂
- ・参加者：18名 観察種：32種

中州のアシ原ではホオジロ、オオジュリン、カシラダカ等が見られ、それぞれの特徴をしっかりと観察することができた。お目当てのカワセミは帰り際に現われたが、じーと止まっているだけなのでしまいには皆あきてしまいました。カワセミさんごめんなさい。

（林）

## ○松阪公園土曜探鳥会（松阪市殿町）

- ・日 時：1996年3月9日（土）9:30～11:30 曇
- ・担 当：中村洋子、官田たつ
- ・参加者：17名 観察種：14種

下見のときいたピンズイ、イカルは見当たらず、ツグミも私達が近づくと飛んでしまっていて見ることができませんでした。でも、最後に本居神社ではシジュウカラ、ウグイス、コゲラをゆっくり観察できました。

（中村）

## ○バードウォッチング入門④（津市岩田池）

- ・日 時：1996年2月17日（土）9:40～11:00 雪
- ・担 当：橋本祐子
- ・参加者：5名 観察種：19種

朝から雪。雪の中カモたちはどうしているのだろうか？  
いつもは奥のヨシの間にあるバンが地面に出てきており、ホシハジロが手前のヨシの中に入り込んでいる。カモたちは雪の降っている間頭を羽の間に入れてじっとしていたが、雪が降りやむと動きだし乱舞を見せてくれた。予定していた「環境とのかかわり」は雪のため、参加者との雑談の中で狩猟のこと、都市計画のこと、水のこと、ゴミのことなど意見交換をする形になった。近くに新しい団地を造成中で、排水管が池へ入る形で工事が行われていた。岩田池周辺を津市が買い上げて公園にするという計画はどのようになっているのだろうか。



## ○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1996年3月10日（日）9:00～12:00
- ・担 当：藤田克三、楢原 泰
- ・参加者：9名 観察種：18種

今冬、野鳥の数、種類が少ないことは各地の探鳥会報告等で報告されている様に、多度峡でも例年になく野鳥の数が少なくなっています。例年いるはずのルリビタキが1羽もいませんし、常連のキセキレイやセグロセキレイもたまにしか顔を出してくれません。どうしてだろう？ それでも、カワガラス夫婦は元気に川の中でエサをとっています。それとニホンザルが最近よく顔を出しています。オオタカ、ノスリも元気です。ハンググライダーも飛んでいます。（藤田）

## ○大山田村村民バードウォッチング

（阿山郡大山田村真泥池）

- ・日 時：1996年2月18日（日）10:00～12:30 雪
- ・担 当：前澤昭彦
- ・参加者：6名 観察種：32種

雪中バードウォッチングで雪の日の小鳥の生活がよく観察できた。

## ○木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会（愛知県弥富町）

- ・日 時：1996年2月25日（日）9:00～12:00 晴
- ・担 当：濱中明代
- ・参加者：31名 観察種：39種

風の冷たい寒い日でしたが鳥の方は順調に出てくれました。ハイロチュウヒは♂♀両方出て参加者を楽しませてくれました。

## ○石垣池探鳥会（鈴鹿市西玉垣町）

- ・日 時：1996年3月10日（日）10:00～12:00 晴
- ・担 当：市川美代子
- ・参加者：36名 観察種：29種

市の広報に載せていただきましたので、初参加の方が多くいらして下さいました。釣糸にからまり松の木にぶら下がったカワウの死骸を皆さんで見ました。釣糸もたくさん拾っていただきました。ありがとうございました。入会パンフレットを10枚以上（12名くらい）もらっていただきました。1月7日の時もそれくらいの方にもらっていただいたのですが……一人でも入っていただけたかな。

○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園）

- ・日 時：1996年3月13日（水）9:20～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子、楢原 葵
- ・参加者：20名 観察種：28種

昨日とは打って変り穏やかな探鳥日和ですが神社林に入ると何故か静まり返っている。小鳥の姿が見えない。大空には無性にカラスが飛ぶ。終了近くになって、トビ、ノスリ、オオタカのお出まし。「やっぱり」納得した。終了後、イカルの群が地上で餌を食べているのを観察。飛び去った後その場に行ってみると、カエデの種子の精が残っていました。（伊藤）

○木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会（愛知県弥富町）

- ・日 時：1996年3月24日（日）9:00～12:00 曇
- ・担 当：濱中明代
- ・参加者：24名 観察種：40種

愛知県と合同です最後の探鳥会となりました。この3年間いろいろな人と出会い、いろいろな鳥と出会い、よい勉強になりました。鍋田地区は道路の建設が進み、日々様子が変わっています。これからも、愛知県は続けて探鳥会を第4日曜日9時野鳥園前集合でして下さるので、大いに参加して変化を肌で感じましょう。それが次の行動を起こす第1歩だと思います。最後に市川副支部長よりごあいさつがあり、会をしめくりました。

○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町）

- ・日 時：1996年4月5日（金）9:00～12:30 晴後曇
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：13名 観察種：28種

今日はよくカワセミが飛んでくれた。公開のため新しい人も出席された。新しい出席者は、「大勢の人々から種々学ぶことができた」という感想があった。

○神社の森と野鳥（伊勢市外宮勾玉池）

- ・日 時：1996年4月13日（土）13:25～14:35 晴
- ・担 当：杉浦邦彦、橋本祐子
- ・参加者：22名 観察種：17種

午後1時開始が遅刻者の多いこと、昨年からの経過説明と今年目標の説明をすることで時間が遅れてしまった。新人が多かったこともあって、時間通り開始できなかったことを反省。橋本様が助けて下さり力強かった。感謝。（杉浦）

[参加者の感想]

カモ類の色彩、アカハラに感動しました。オガタマノキ、ハナノキの幹に耳をやり、樹木内の水の流れる音の違い、また野鳥の鳴き方を知ること自然との対話ができることを知り喜んでます。

○松阪公園探鳥会（松阪市殿町）

- ・日 時：1996年4月17日（水）9:30～11:30 晴
- ・担 当：宮田たつ、中村洋子
- ・参加者：13名 観察種：14種

元市長が参加したい旨電話があり、私では対応が無理だと思って橋本、谷本さんに来ていただきました。結局参加されず、「かまえることはないなあ」と思いました。初めての参加者になるべく声をかけるよう心掛けました。（宮田）

[参加者の感想]

メジロとホオジロのさえずりはよく似ていると思いました。鳥は少なかったけれど、カワラヒワ、ツグミの♂♀の見分け方を教わりました。おまけに、神社ではキツネが現われて、市街地なのにちょっとした森でも居るのだなあと思いました。

○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園）

- ・日 時：1996年4月17日（水）9:20～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子、楢原 葵
- ・参加者：20名 観察種：27種

今年度も担当させていただきます。よろしくお願ひします。回を重ねるたびに参加者が増え、とてもうれしく思います。遠方の参加者には頭が下がります。3月初旬から1ヶ月程留守にしていたアオバトが4月16日の下見に26羽帰って来ていたが、当日は残念ながら3羽しか残っていない。旅立ったのかな。テーマは「さえずり」。メジロ、ホオジロのさえずりを聞くことができた。モズ、バン、キジ等、ペアを組んでいる様子が感じられた。（伊藤）

[参加者の感想]

レンズを通して観た野鳥にとっても感動しました。  
(初参加者)





## ○大湊探鳥会（伊勢市大湊町）

- ・日 時：1996年4月19日（金）9:00～12:00 曇後雨
- ・担 当：小坂理香、吉居瑞穂
- ・参加者：18名 観察種：38種

一応シギの渡りがテーマだったので、夏羽の美しいキョウジョシギ、オオソリハシギなどが出てくれてほっとしました。昔に比べると大湊も環境が悪化して鳥もぐんと減ったとのこと。雨がばらつくあいにくの天気、鳥合わせの時ついに本降りになりはじめ、しめくりがいまひとつでしたが、参加者に「楽しかった」と言っていたき安心しました。（小坂）

## ○バードウォッチング入門①（津市借楽公園）

- ・日 時：1996年4月20日（土）9:30～11:45 曇後晴
- ・担 当：橋本祐子
- ・参加者：20名 観察種：16種

散りかけのサクラ、見頃のミツバツツジ、芽のふきかけたナラガシワ、コナラの美しい中の探鳥となった。気温が低く風が強かったためか、さえずる姿が少なかった。

た。さえずっていた鳥はキジバト、カワラヒワ、メジロ、アオジ（ぐぜり？）、シジュウカラだが、いずれも本格的でない。スズメがメタセコイアの幹の皮を運んでいた。

まったくはじめての人が半分いたが、探鳥歴の浅い人が多くゆったり探鳥できたので、かえって多くの野鳥と出会えたように思う。4月ということもあり、新しいことをはじめようという気持ちで参加される人がたくさんいることがわかった。

## ○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1996年4月29日（月）9:00～12:00
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：11名 観察種：20種

天気も朝からよく晴れ、日中暖かい一日でした。鳥の方は期待したほど出てもらえませんでした。その分加藤先生のお助けで植物観察ができました。私自身、もっと自然観察について勉強しなければと思っています。

## 1996年春の野鳥情報

多田 弘 一（嬉野町）

2月25日	ウグイス1初さえずり	嬉野町中川の自宅庭
2月28日	ヒバリ1初さえずり	三雲町曾原の田
3月12日	イワツバメ約20初認	嬉野町黒田の雲出川川面
3月16日	ツバメ2初認	嬉野町中川の中村川川面
4月5日	シマアジ1♂初認	三雲町五主の大池
4月9日	アマサギ1初認	三雲町喜多村新田の耕運機が耕す田
4月11日	アオジ1初さえずり	嬉野町中川の自宅庭
4月12日	シマアジ1♀初認	三雲町喜多村新田の養魚池
4月13日	チュウサギ1初認	三雲町曾原の農業用水路
4月16日	セッカ1初さえずり	三雲町舞出の雲出川堤防

## 北勢地区からのお知らせ

北勢地区の地区会が、今年度は毎月第一土曜日になりました。皆んなの話し合いで、探鳥会になったり、事務所で室内会になったりします。参加希望者は濱中（Tel 〇〇〇〇）までご連絡下さい。

大勢の方のご参加をお待ちしています。

## 事務局より

☆運営事務局を手伝っていただける方を募集します。

- ①三重県支部の活動をマスコミ等へ連絡する広報担当者
- ②探鳥会案内の原稿作成の担当者
- ③探鳥会案内等の発送作業を手伝える方（ただし、平日に三重県支部事務所まで来られる方）

以上のどれかをやってみたいという意欲的な方、お待ちしております。木村までご連絡下さい。

(TEL)

☆毎週火曜日（10:00～12:00）には支部事務所で事務作業等を行っています。どんなことをしているか見てみたいという方、単純作業なら手伝ってもいいなという方、差し入れをしたいという方、ぜひお越し下さい。支部事務所には日本野鳥の会の他の支部の支部報や調査報告書、野鳥の書籍などもありますので、本を見に来ていただいても結構です（貸し出しも行ってます）。野鳥図鑑も販売します。インスタントコーヒーも飲みます。

ただし、事務所での作業は、臨時に休みになる事があり、学校の長期休暇期間中や祝日も休業(?)となりますので、あらかじめ、ご連絡下さい。



JR四日市駅から徒歩約8分  
近鉄四日市駅から徒歩約20分  
\*車は鹿島医院駐車場へ

☆今年も研修会を行います。内容は親子向け探鳥会のリーダー養成(?)です。時代を担う子供たちに自然のすばらしさを伝えたいという方、ぜひご参加ください。（詳しくは本誌5ページをご覧ください）

## 編集後記

編集後記というよりは後悔記を書きたいような気分です。発行も遅れてしまい申し訳ありません。◆相変わらず執筆者が偏っています。皆様からの多種多様な原稿を期待しています。よろしくお願ひします。(せ)

しろとり第13号

1996年5月発行

表紙絵 平井正志 題字 濱田 稔

編集 世古口有司

TEL

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館印刷 〒510-13 三重郡菟野町田口1903-3